

8月例会報告

令和6年8月例会が8月24日(土)三ツ城地域センターで行われ、33名が参加した。冒頭、赤木会長が「この夏も猛暑が続きました。地球温暖化という時代が長く続きましたが、今はそれを通り越し、地球沸騰時代と言われています。人の活動が地球にダメージを与えている現在、歴史を学ぶ者としてこのような問題にも関心を持たなければいけないのではないかと感じています。あと2ヶ月で県史協大会。会員の皆さんが暑い夏も駆けずり回ってあと一步のところまで来ました。もう少し頑張って、県史協大会を盛り上げていきましょう」と挨拶した。

今回は、県史協大会でもご講演をいただく広島大学人間社会科学研究科教授 熊原康博先生に「郷土史研究に活用できる地図サイトの紹介と実習」というテーマで発表いただいた。

国土地理院が提供している地図データを使って、史跡の場所を示す地図を作成したり、歴史散策ルートマップを作ったりする方法が紹介された。

また、発表だけでなく、実際にパソコンを使って、地図データ加工の実習も行われ、参加会員が、今後活用できる技術を習得するための有意義な機会となった。

発表後には、今月、新たに会員となった3名の挨拶が行われた。当会では、今年度になって6名の新規会員を迎えている。新たな活力を得て、当会の活動がさらに活発化することを期待する。

<例会参加者(敬称略)>赤木達男、国永昭二、中川平介、船越雄治、近藤英治、実井研治、蔵楽知昭、蔵楽恭子、角谷勉、谷本操、國松宏史、三島昇、西本嘉住、中村建治、宍戸元文、松浦学、山地悦子、今田幸博、桧山義子、天野浩一郎、神笠美保子、小西美智子、光田清志、吉村鈴枝、福田博士、吉田泰義、間瀬忍、上野洋司、吉井良平、梶津利江、西谷勝彦、長田悦子、大森美寿枝(以上33名)

9月臨地例会のご案内

日 時 9月28日(土) 8:40集合
場 所 三原市久井町・久井の牛馬市跡
集合場所 西条・鏡山第二駐車場
(市役所横バス停)
参加費用 1,200円(交通費含む)
※各自昼食・飲み物をご持参ください。

7月例会発表 その1

外国人被爆者

丸本富美子

1. 外国人被爆者

外国人被爆者とは「戦時に広島、長崎にいて被爆した日本人以外の外国人と外地人(日本統治下にあった台湾人・朝鮮人など)」である。悲惨な被爆体験をしたのは、日本人だけではない。広島・長崎にいた外国人も被害を受けた。在外被爆者は、30か国 約4500人、手帳を持っている人が2388人。どんな人たちが、なぜ広島にいたのか、どんな被害を受けたのか。

1-2 南方留学生

現在、広島大学では70ヶ国から1900人の留学生が学んでいる。戦争中は南方から学ぶために留学していた。南方留学生と呼ばれていた彼らの多くも被爆者となった。

南方留学生は、太平洋戦争中に「南方」と総称された東南アジアの各占領地区等から招聘された日本最初の国費留学生のこと。第二次世界大戦中、東南アジア各地を軍事的・電撃的に占領した日本は、「大東亜共栄圏」建設のために将来の指導者、現地で率先協力してくれる人材を育成するために 東南アジア各地から招致した。

南方特別留学生として、マレーシア、インドネシア等から2年間で205名が訪れ、そのうち29名が広島で学んでいた。(来日後、東京の国際学友会で再度準備教育を受け、その翌年には日本語、物理、化学、数学、修身等の試験を受けて、進学先が決まった。)

広島大学の前身の一つである広島高等師範学校と1929年に設立された広島文理科大学では、南方留学生のために文科興南部、特設学級が新設され、特別なカリキュラムが編成された(高等師範に20名、文理大に9名の留学生)。

(1) 南方留学生の生活

留学生は、将来の日本のリーダーとして選ばれていた。給料は、1人当たり月額100円(昭和19年から120円)であった(当時大卒の初任給は70円)。ただ、食糧として与えられたものは配給1日1合、その他(押し麦、高粱、乾パン)というわずかなもので、いつも空腹だった

という。

また、彼らは興南寮という寮に住んでいた。木造建ての寮で、21室あった。萬代（よろず）橋の東詰近くの元安川に面した場所（平和公園から900m）にあり、原爆で焼失した。

（2）南方留学生の被爆

広島での原爆投下当時、市郊外の病院に入院していたナムスカリ・サストラネガラ氏を除き全員が被爆。当時の様子は次の通り。

- ・2期生の4人は広島高師の音楽教室（1.5km）で物理学や数学の授業を受けようとした時、目がくらむような閃光が走り、木造2階建ての音楽教室は崩壊し、留学生は教官とともに建物や落下物の下敷きになった。

- ・1期生4人は、1時間目の授業はなく、3人が興南寮（900m）で被爆した。

- ・火の手が激しく、筏の上で夕方まで元安川の中へ逃げる。

- ・8月14日までを文理大学本館前の校庭で、南方留学生たち17名が野宿して過ごした。蚊帳をつって横になり、夜になると故郷の歌「ブンガワンソロ」「ラササヤング」などを歌っていた。

- ・校庭に植えてあったサツマイモやカボチャを煮て食べた。

- ・留学生が必要な食糧や諸道具、包帯、付け薬を探してきて、病人の世話をした。

- ・オマール、ベイが朱を大八車に乗せ、己斐まで運んだ。

- ・オマールがM家の引っ越しの大八車をひもでひっぱった（17km）。

- ・14日まで野宿した人たちは、南方特別留学生6人、中国留学生（朱、薫）2人、日本人9人で助け合ったと残っている。

戦後、南方留学生と親交のあった花岡俊男氏が「興南寮碑」の建立を決断し、各方面へ協力を呼びかけ、1976年「興南寮跡」（下写真）が建てられ除幕式が行われた。



1-3 ロシア人

ロシア革命で亡命したバイオリニストが広島女学院で音楽教師をして生活していた。被爆後、

自宅からバイオリンを探し出すことはできたけど、終戦後は生活ができなかった。アメリカへ渡っていた息子の元へ行った。広島女学院100周年の時、娘さんがバイオリンを寄贈したとある（右写真）。

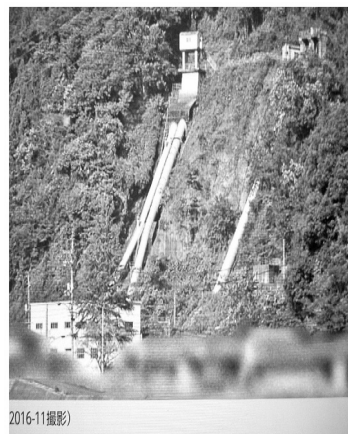


1-4 米兵捕虜

米兵で捕虜だった人も12人被爆死した。オバマ大統領が広島に来られた時、捕虜について調べた森重昭さんと抱き合ったことで話題になった。被爆死した12人は、7月28日、米軍機が呉沖で戦艦「榛名」「利根」を攻撃中に撃墜された3機の米軍機の乗務員だった。内訳は、ロンサムレディ号6人、タロア号3人、海軍爆撃戦闘機3人である。

1-5 中国人

1944～45年にかけて、港湾、ダム、発電所、鉱山等で強制連行された中国人4万人うち約7000人は生きて祖国の地を踏むことはなかった。中国電力の山県郡加計町にある安野発電所（右写真）には360人が強制連行された。食料の不公平な分配をきっかけに、たまっていた不満が爆発し、隊長を殺すという事件が起こった。この事件のために、広島刑務所に入った13人が被爆した。うち、6人死亡（ガラスの破片が顔にささった。塀が高かったので助かった）。



戦後、彼らは、西松建設に謝罪と補償を求める裁判をおこす。強制連行に対しての裁判で、西松建設側は、「強制連行は、国策であり、企業に責任はない」と主張した。この裁判は、2004年、控訴審で和解。広島高裁 鈴木裁判長が西松建設に1人550万円の全額賠償を命じた。

1-6 朝鮮人

当時広島での被爆者7万人のうち、死者が2万人。その一割が朝鮮の人だった。その人数の多さに驚かされる。

多くの朝鮮の人が被爆する原因となった歴史的背景が1910年の韓国併合から始まる。朝鮮を日本の植民地とし、日本国天皇の臣民となった。韓国総督府が設置され、「土地調査事業」が行われた。実際は、共有地であった山林を国有地に没収したり、農民の土地を取り上げて日本人資本に吸収する。「産米増殖計画」は農産物の強制的な供出につながった。先祖伝来の土地を奪われ、経済的にも暮らしが立たなくなった農民たちは、生活の糧を求めて海外へ流れた。1939年「国家総動員法」や「国民徴兵令」が始まって朝鮮人の強制連行が広がった。

広島市は、日清戦争後大本営が置かれ、宇品港から軍隊を送り出していた。被服廠、糧秣廠、兵器廠もあり、機械製作所、造船所など仕事がたくさんあった。在日朝鮮人の渡日年表を見ると昭和20年の敗戦前にたくさん渡日していることがわかる。

2. 被爆者援護法の闘い

在外被爆者裁判 第1号 孫振斗（ソンジンドウ）皆実町の専売店構内で被爆。51年韓国へ強制送還させられた。

1970年 治療を受けたいと不法入国した。

被爆者健康手帳の交付を求めて福岡県知事を提訴した裁判をおこす。

1972年 福岡地裁は「正規の居住者ではない」と却下

1974、75年 福岡高裁は原告の主張を認めた。

1978年 最高裁判決

「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律は、国家補償的配慮が制度の根底にあり、不法入国した被爆者にも適用される。」

来日すれば被爆者健康手帳が交付されることとなった。

402号通知「日本国の領域を超えて居住地を移した被爆者には、法律の適用がない」帰国後の手当支給打ち切りをした。

それとたたかったのが、第2の手帳裁判の戦い。

郭貴勲（カククィフン）「日本で取得した被爆者健康手帳が、韓国帰国により、無効とされるのは違法である」と訴えた。

2002年 勝訴「韓国の被爆者にも、被爆者手帳を得て、医師の診断書を添えれば健康管理手当月2万円を死亡するまで、死亡時の葬祭料も支給する。」

2018年 最高裁判所で最終被告企業に損害賠償を求める勝訴判決がでた。

2-1 在アメリカ被爆者裁判

2003年 アメリカ在住の被爆者と遺族4人が居

住地から健康管理手当、保健手当と葬祭料を広島市に申請した。

2005年 広島地方裁判所は、在外公館で各種手当の申請ができるようになった。

2-2 在ブラジル被爆者裁判

2003年 ブラジル在住の被爆者が、ブラジルに帰国したことで、健康管理手当の支給を打ち切った広島県処分を不服として提訴した。

2004年 広島地裁 5年以前のものは、消滅時効が成立している。

2007年 最高裁判決 広島地裁判決を是認

現在、諸手当の申請は、居住国からできるようになったが、被爆者健康手帳と原爆症認定申請は、日本にいないとできない。

3. おわりに

戦時中に、広島にいろいろな国の人達が住んでいたことに驚いた。広島に日清戦争後、大本営設置、宇品港からの戦士送出など、被服、兵器、糧秣廠等で生産活動をし、仕事がたくさんあった。軍事都市だった。

○原爆は、あらゆる国の人々を区別なく襲った。その命、家族、生活や将来の夢が奪われ、苦しみが続いた。

○自分を振り返ると、広島に生まれたこともあり、被害者としての側面を多く学んできたように思う。

この度、被爆悲惨さの奥に戦争の加害国の側面を突き付けられた。学校教育で、複雑だからこそ、もっと現代史を、具体的に人道的に考える場を設けるべきだと思う。歴史上の学びと現実がむすびつくように…

○外国人の被爆者手帳等は、被害者が裁判することにより、日本人と同じように取得できるようになった。

日本では、医療費等は無料だけど、外国では有料なので、十分な治療ができていない。

○まだまだ、普段の生活にある差別や不条理に気づく力、真実を知るための学びを続けていきたい。それが自由に話せる場を大切にしたい。

7月例会発表 その2

ハイドパーク覚書について

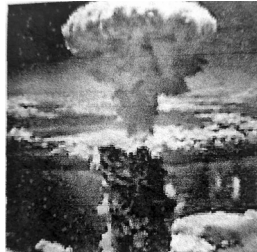
吉岡眞喜夫

1 はじめに

1939年、アインシュタインはフランクリン・D・ルーズベルト大統領に手紙を書き、「大量のウランの中で、核連鎖反応を起こすことが可能になり、それによって、膨大な力と大量の

ラジウムのような元素が生み出されることになるでしょう…従って、新型の非常に強力な爆弾が作られることは、確実とは言えないにしても、想像できることです」と述べた。アインシュタインは大統領に、ナチスドイツはすでにウランの輸出を禁止したと警告し、米国政府は原子力研究を早めるべきだと提言した。

ルーズベルトは、マンハッタン計画に着手した。米国、英国、カナダ3国による極秘の応急的な取り組みだったが、これが世界最初の原子爆弾を生むことになった。



原爆によるきのこ雲

2 ハイドパーク覚書の内容

ハイドパーク覚書は、1944年9月18日、米ニューヨーク州ハイドパークで、フランクリン・ルーズベルト米大統領と、ウィンストン・チャーチル英首相の会談の内容が記されたものです。

(ハイドパーク覚書原文より一部抜粋)

When a “bomb” is finally available, It might perhaps, after mature consideration, be used against the Japanese, who should be warned that this bombardment will be repeated until they surrender.

(日本語訳)

「爆弾」が最終的に使用可能になった時には、熟慮の後にだが、多分日本人に対して使用していただろう。なお、日本人には、この爆撃は降伏するまで繰り返し行われる旨、警告しなければならない。

原文は、英米首脳の合意・了解事項として、原爆投下目標は(市街地で暮らす)「人間であり、日本人」と明言し、「降伏しなければ、「繰り返し」投下し、ほぼ全滅させる趣旨を警告するとしている。

3 1944年から1945年当時の戦況

ハイドパーク覚書が作られた1944年9月ごろのヨーロッパ戦線は、米英連合軍がフランスのノルマンディーに上陸して、米英軍優勢でドイツ軍への攻撃を強めていた。

一方、太平洋戦線では、1944年7月アメリカ軍はサイパン島で日本軍を玉砕に追い込んで、島を完全に占拠したことによって、日本本土爆撃の固定基地を持つことができ、B29の爆撃で確実に日本を壊滅させ得る立場になっていた。

1945年2月には硫黄島で、また4月から6月にかけて沖縄で、ともに烈しい戦いがあったが、これらの島の確保は日本本土攻略に欠かせなかった。サイパン島は、サイパンからのB29不時着などの安全のために必要であり、沖縄は、日本本土と南方とを完全に遮断するための拠点となる基地にするために必要であった。

しかし、これら両島を得た後は、アメリカは、B29の日本への繰り返し爆撃で、日本が徐々に弱のを待っていればよかった。

アメリカは、もはや、硫黄島や沖縄の烈しい戦いを繰り返す必要もなかったし、そのつもりもなかった。米兵50万の犠牲者など、決して出さないような計画で動いていた。

4 日本人に対して原爆を使用することが決定されたのはなぜ？

(1) 古く日露戦争直後から、カルフォルニア州に日本人移民排斥運動が起こり、排日土地法が成立し、日本からの移民に市民権と土地所有権が認められなかった。借地すら禁止された。それだけでなくアメリカ政府は、日本人移民男性に米指名権を持つ女性との結婚さえも禁じた。

大正時代になると、排日移民法案が米議会を通過して、日本からの移民は全面的に禁止される。それでも1941年の開戦時、米本土に約12万人の日本からの移民とその子孫がいた。その3分の2は米国籍を持つから完全な米国人のはずである。しかし、その日系米市民にもアメリカ社会は容赦なかった。太平洋戦争開戦直後の1942年初頭、日系米人は、戦時緊急措置として強制収容所に収容されたのである。

(2) トルーマンは、真珠湾を攻撃した日本に懲罰を下したかったのです。真珠湾攻撃が彼の復讐心を掻き立てるのは、被害が大きかったというよりも、自分たちより劣っているはずの日本人がそれに成功したからです。

トルーマンは若いころ(1911年6月22日)のちに妻になるベスに送った手紙の中で「おじのウィルは、神は土くれで白人を作り、泥で黒人を作り、残ったものを投げたら、それが黄色人種になったといいます。おじさんは中国人とジャップ(日本人の蔑称)が嫌いです。私も嫌いです。多分、人種的偏見なんでしょう。でも、私は、ニガー(黒人のこと)はアフリカに、黄色人種はアジアに、白人はヨーロッパとアメリカに暮らすべきだという意見を強く持っています。」と言っています。

大統領になってもこの人種的偏見から抜け出せていなかったことは、彼がサミュエル・カヴァート（アメリカキリスト教協会の幹部）あての手紙で「けだもの（ジャップ）と接するときにはけだものとして扱うしかありません」と記していることからわかります。

(3) アメリカは、当時、日本をできるだけ早く降伏させアメリカ軍の犠牲を少なくしたいと考えていました。また昭和20年（1945）2月のヤルタ会談で旧ソ連が対日参戦することが極秘に取り決められ、アメリカは、それ以前に日本に原爆を投下し、戦後、世界で優位に立ちたいと考えていました。さらに、20億ドルの経費と最大時には12万人以上を動員して開発した原爆が戦争終結につながったとアメリカ国内向けに正当化する必要もありました。

5 おわりに

広島や長崎の原爆投下はたった1発の爆弾で、両市あわせて21万人以上の人の命を奪いました。

核兵器がいかにか人の命をたやすく奪うものかは、広島や長崎の原爆被害の実相（熱線による被害、爆風による被害、放射線による被害）を見れば明らかです。にもかかわらず、世界の大国は核兵器を保有し続けています。

かつてのように、核兵器を持つ国がアメリカだけではなくなくなったからには、核兵器の使用は相手からの報復を呼び、人類を滅ぼしかねない違法な兵器との認識を広め、いかなる場合にも使用を許さないとの世論を喚起していくことが重要である。

《引用文献》

(1) 「核兵器のない世界」－はじめに About THE USA

出典：eJournal “A World Free of Nuclear Weapons”

<https://americancenterjapan.com/aboutusa/translations/2620/>

(2) 原爆は「日本人」に投下せよ…資料館に残る衝撃の「ハイドパーク覚書」「降伏するまで繰り返し」非人道性の最たる一文も発掘・考察 大東亜戦争 『夕刊フジ』2023. 8. 11

<https://www.zakzak.co.jp/article/20230811>

(3) 「原爆は日本人には使っていないな」岡井 敏著－早稲田出版－p11

(4) 「核兵器は禁止に追い込める」岡井 敏著－社会批評社－p14～p15

(5) 「原爆 私たちは何も知らなかった」有馬 哲夫著－新潮新書－p124

(6) 被爆に関すること－よくある質問と回答－広島市

どうして広島に原爆が投下されたのですか
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/faq/list1491-2972.html>

《参考資料》「ハイドパーク覚書」

TUBE ALLOYS

Aide-memoire of conversation between the President and the Prime Minister at Hyde Park, September of 18, 1944.

1. The suggestion that the world should be informed regarding Tube Alloys, with a view to an international agreement regarding its control and use, is not accepted.

The matter should continue to be regarded as of the utmost secrecy; but when a "bomb" is finally available, it might perhaps, after mature consideration, be used against the Japanese, who should be warned that this bombardment will be repeated until they surrender.

2. Full collaboration between the United States and the British Government in developing Tube Alloys for military and commercial purposes should continue after the defeat of Japan unless and until terminated by joint agreement.

3. Enquiries should be made regarding the activities of Professor Bohr and steps taken to ensure that he is responsible for no leakage of information, particularly to Russians.

FDR WCC

18.9

「原爆は日本人には使っていないな」岡井 敏著－早稲田出版－p3

管用合金

1944年9月18日、ハイドパークでの大統領と首相の会話に関する覚書

1 管用合金の管理と使用については、国際協定を目指して、管用合金を世界に公表すべきであるとの意見があるが、この意見は受け

入れられない。本件は、極秘にし続けるべきものである。しかし「爆弾」が最終的に使用可能になった時には、熟慮の後にだが、多分日本人に対して使用していいだろう。なお日本人には、この爆撃は降伏するまで繰り返される旨、警告しなければならない。

2 管用合金を軍事目的、商業目的に開発する米英両政府間の完全な協力作業は、日本敗北後も、両政府の合意によって協力が停止されない限り、継続されるべきである。

3 ボーア教授の活動については調査する必要がある。教授には、特にロシア人に対してだが、情報を漏らさない責任があり、この保証措置を取らねばならない。

9月18日

ルーズベルト チャーチル

「原爆は日本人には使っていない」岡井 敏著
—早稲田出版—p4

創立50周年特別寄稿 第4弾 郷土史会 出会えた幸運

蔵楽 知昭

「出会い」は偶然だった。大阪でずっと暮らしてきて、定年を機に広島に戻ることに決めていた。買い物に訪れた御園宇のフジグランの2階である展示会が開かれていて、何気なくのぞいたのだ。「東広島の明治維新」とあざやかな墨書のもと、お馴染みの懐手をした坂本龍馬を中心に3人の武士が並ぶ写真が入口にあった。平成23年（2011）の秋のことだ。

東広島郷土史研究会が開催している郷土史展であった。第32回だった。志和に本拠を置き、戊辰戦争を戦った神機隊と八条原城跡を中心にした展示内容だった。志和にこのような歴史があること、木原秀三郎、高間省三らの名とともに初めて知った。その年の春、東日本を襲った大震災の被災地である福島・浪江町に隊士の墓所があることなどを紹介されていた。

黒瀬で生まれ大学時代まで過ごした地域の歴史をなにも知らないでいることに気づき、「少し学んでみたい」と思い、備えてあった郷土史会ニュースのバックナンバーを手にして入会を申し込んでいた。これが研究会との「出会い」だった。

月1回の例会に顔を出すようになり、ニュース編集のお手伝いをするようになった。月1回、発足以来欠かさず発行されている。欠かさず

にはいかない。何をとりあげるか、だれに原稿を依頼するか、会員のだれが、どんなことをしているのか、例会だけではない「情報」を集めなければならない。編集会議として事務局会議にも顔を出すようになった。そのせいか会全体の動きとともに、巨樹、古文書、山城などさまざまなことに興味を持ち、独自の活動を続ける会員が多数いることも知った。

その後に天野浩一郎会長のもとで事務局長をつとめ、さらに天野会長のあとを受けて会長の役目を仰せつかった。4年間の会長時代、その役目を果たせたか自問すると、いささか心もとない。後半はコロナ禍にあって伝統行事の歩く会なども中止せざるを得ない事態となり、ままならない状況にもどかしい思いがした。コロナを恨むとともに、この時期に会長となった自分の不運を嘆いた。

その間、会員との行き違いなどさまざまな出来事があり、心が折れそうになったこともあったが、今はもう楽しかった思い出しかない。さまざまなイベントなどで参加者から、「ふるさとの歴史を知る機会を与えてくれてありがとう」との声をいただいたときは、郷土史会にいてよかったとしみじみ感じた。先輩諸氏の築きあげた郷土史会の歴史という財産の重みを改めて感じたものだ。

郷土史会は50周年を迎えたわけだが、私自身のかかわりから見れば、そのうちの13年ほどに過ぎない。ただ郷土史とともに歩んだ13年間は、私の人生のなかでかなりの比重をしめるものとなった。フジグランでの偶然の出会いがあったから、この運を運んでくれたと思っている。

【八本松探訪16】

八本松町のお寺 (1/3)

天野浩一郎

八本松町内には下表の9寺院があります。

八本松町内の寺院

名称	所在地(地区)	宗 派
教順寺	原	浄土真宗本願寺派
円福寺	〃	臨濟宗妙心寺派
西福寺	吉 川	浄土真宗本願寺派
寿福寺	篠	浄土真宗本願寺派
城福寺	正 力	浄土宗鎮西派
善正寺	〃	浄土真宗本願寺派
妙徳寺	飯 田	浄土真宗本願寺派
天龍寺	八本松西	浄土真宗本願寺派
妙福寺	八本松南	顕本法華宗

1. 宗光山教順寺（八本松町原）

石段を登り二階部分に鐘楼を備えた豪華な山門をくぐると、広い境内の奥に荘厳な本堂が建っています。境内の樹齢170年を超える大イチョウ、桜の木と共に経典を納めた経堂があります。

お寺には個人墓に替って、複数の人を合祀する“合祠堂”を設け、墓守を寺が行っています。ペットの葬儀・火葬・法要なども受け付け、専門家を招いた招致講座、お稽古サロン、定例法座などがあります。

お寺の開基は不明ですが、天正年間の1570～80年代に初代空岸が開基したとされ、現住職の戸島崇文氏は19世に当たります。約450年を超えて法灯を灯し続けています。

当寺に残る文化財の一部を紹介します。

・集団疎開生の“感謝”の石碑

太平洋戦争末期、米軍により広島高等師範学校にも爆弾が投下されるようになり、昭和20年7月同校の附属中学1年生100余名が教順寺、新光八幡神社に疎開をしました。彼らは本堂や社殿に寝泊まりし、食料不足の中で原村村民が提供した食事で腹を満たしました。

それから55年後の平成12年（2000）、当時の中学生達が“食料が不足する中にも係わらず疎開を受け入れてもらったため、原子爆弾による大惨禍を免れることができた。当時の原村の皆様へ感謝をする”趣旨の石碑を境内の一角に設置しました。



集団疎開の感謝の碑

戦後、広島市内の多くの児童・生徒が疎開先から広島市内に帰りました。しかし、原爆により家族や家屋を失い、戦災孤児として歩んだ彼らの悲しい歴史もあります。

・“盃状穴（はいじょうけつ）”のある手水鉢

感謝の石碑近くに手水鉢があり、手水鉢の縁や水溜りに約11個の人工的に掘られた穴の“盃状穴”があります。

大変珍しいもので、十数年前の石造物研究会

の調査で、東広島市内で13件の盃状穴を発見しました。大半が江戸時代のもので推定しました。何の為の穴かは定かではありませんが、何かの願いが叶うように念じながら何度も何度も硬い木や石などで手水鉢の縁などを穿ったものと想定されます。

・11世住職 雲幢（うんどう）の墓

雲幢は、寛政6年（1794）36歳で当寺を隠居し、仏道を極めようと広島の学僧のトップ慧雲（えうん）から真宗の教義を学びました。

三業惑乱（さんごうわくらん）では、旗手の大瀛（だいえい）の支援活動を行います。

【参考】三業惑乱

浄土真宗本願寺派の教義をめぐる発生した紛争で、江戸幕府の寺社奉行が介入・裁定し決着したものです。

寛政9年（1797）本願寺の教義を僧侶たちに教育する最高責任者である能化の智洞が“三業帰命説（阿弥陀仏に救済を求めるには「阿弥陀仏様助けて下さい」と心で・口で・体で救済を求めなければならない）”を主張する。この説の是非を巡って全国で論争が始まり、收拾がつかなくなって西本願寺は大混乱に陥る。

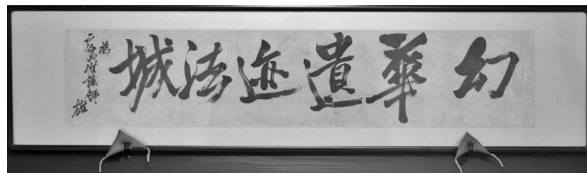
文化3年（1806）寺社奉行の立ち合いで、智洞と“三業帰命説”に反対する広島の僧・大瀛が“三業帰命説”の是非について論争し、寺社奉行の脇坂安薫が“三業帰命説”は非と裁定する。

三業惑乱の終結後、雲幢は喧嘩両成敗で逼塞を命じられ、原村の佐々木家で過ごしました。記念に庭を築造し「一心」と名付けます。

罪を解かれた雲幢は、文化10年（1813）～文政4年（1821）西本願寺で全国の僧侶たちに浄土真宗の教義を教え、その後教育機関のトップ勸学に任命されます。

・宇都宮黙霖の書「幻華遺迹法城（げんかゆいしきほうじょう）」

黙霖は親しく教順寺を訪れ住職達と楽しいひと時を過ごし、下記の書を残しています。書の意味は“雲幢（幻華：雲幢の号）が仏教を教えていた場の教順寺”の様ですが、活躍した雲幢に対する黙霖の尊敬の念が入っているものと思われる。



宇都宮黙霖の書

2. 瑞鳳山小倉院円福寺（八本松町原）

広島県道335号から小倉神社遙拝殿の参道に入ると、左手に民家風の円福寺があります。

・安永9年（1780）に写された「瑞鳳山小倉院円福寺縁起」には“近江からやってきた活首座が地元の人から小倉寺の衰退を聞き、足利義満公に免許を願い出る。そして小倉寺を瑞鳳山小倉院円福寺と改め、応永15年（1408）小倉神社の麓から小見谷に移す”とあります。初代は豁藏（活首座）とされています。

・1700年代初期には本堂（3間×3間）、庫裏（5間×4間）、表門（1.5間×1.5間）、境内（244坪）を備え、田（2町9反余）、畑（2反余）、山（2町1反余）などを持っていました。

檀徒は151戸あったようです。

・寺の経営が難しくなったからでしょうか、寛政2年（1790）には棲真寺（三原市大和町）の住職が第9代目の住職を兼務します。その後、住職のいない時代や本山の妙心寺から送られた住職の時期もありましたが、ほとんどが永福寺、棲真寺（三原市）、円通寺、平泰寺（東広島市）が住職を兼務しています。

・明治6年（1873）の寺院調査の時、住職が無断で他行して寺におらず廃寺処分を受けました。

廃寺処分の通告を受けた檀徒たちは驚いて、度々原村経由で広島県に再興を嘆願しました。しかし、一度円福寺の土地が官有地に編入されたので、土地の払い下げが困難で話が前に進みませんでした。

明治22年（1889）やっと世話人たちの苦勞が実り円福寺の再興の許可が出て現在に至っています。

・円福寺には本尊仏像（木像）、菖蒲の前位牌（瑞鳳院殿菖蒲前二位西妙尼大姉）、涅槃絵などの文化財が残っています。

現在檀徒はいませんが、地元の人達が毎月円福寺の掃除や草刈りを続け、そのお陰で文化遺産が保存されています。

（参考文献：「原村史」他、写真：松浦学氏提供）



円福寺再興の記念

《新規会員紹介》

高橋 愛美（西条町）
 檜山 義子（西条町）
 松浦 学（八本松町）

県史協大会臨地研修コース試歩のご案内

Aコース：東広島のあけぼの（三ツ城古墳等）

日時 9月22日（日）9:00～

Bコース：西国街道四日市宿

日時 9月23日（月・祝）10:00～

※集合場所は、いずれも市役所北館1階

グループ研究会ご案内

第289回 古文書研究会

とき 9月10日（火）13:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑦

第187回 石造物研究会

とき 9月24日（火）13:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

内容 第3回石造物探訪会資料検討

第186回 四日市町並研究会

とき 9月9日（月）10:00～

ところ 西条本町歴史広場 小島屋土蔵

内容 県史協大会酒蔵コース案内準備

第4回 昔の道探訪会（旧山城探訪会）

とき 9月21日（土）8:49～15:00頃

集合場所 西条駅 8:49発電車

※福山市松永はきもの資料館に10:00集合

探訪場所 福山市松永はきもの資料館 他

原爆資料保存研究会

とき 9月19日（木）14:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

9月の図書室開放

とき 9月20日（金）13:00～15:00

ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第601号

令和6年（2024）9月5日発行
 編集・発行 東広島郷土史研究会

会長 赤木達男 TEL(082)423-7235

E-mail:akata@akata.d4.dion.ne.jp

事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234

E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp

会報編集 間瀬 忍 TEL080-5756-2303

E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp